

●セルタオンの月明かり●イスラム圏伝道



異常気象のため、4月から南国スペイン顔負けのお天気が続いていたドイツも、今週、やっと雨が降りました。このまま雨が降らなければ農作物は大変、と懸念されていたから、実に恵みの雨となりました。(写真:ベルリン、オラニエンブルクのシナゴーク)

いよいよ次期のコンサートに向けて、本格的な準備を始めました。8月のブラジル・コンサート・ツアーでは、「神だけが」などをポルトガル語で歌わせていただくこと、只今ポルトガル語に奮闘しています。

ところで、ブラジルのコンサート実行委員会から、是非プログラムに加えて欲しいと Luar do Sertao「セルタオンの月明かり」という、ブラジル人なら誰でも知っている曲が送られてきました。日本の「荒城の月」、フォーレの「月の光」にも勝るとも劣らぬ、心に染み入る詩に、歌う前から感動しました。さっそく皆さんに訳詞をご紹介します。

セルタオンの月明かり 作詞・作曲: Catulo da Paixao Cearense

(リフレーン)

ねえみんな、セルタオンのような、こんな月明かりは他にはないよ
ねえみんな、セルタオンのような、こんな月明かりは他にはないよ

1. ああ、僕の田舎が懐かしいよ

あの白くなる山脈、地面に散らばる枯葉
こっちの町の月明かりはとても暗いよ
あのセルタオンの月明かりのような懐かしさが無いよ！
(リフレーン)

2. 月が緑の森の後ろから現れると

それはもう銀色の太陽みたい、孤独を銀色に照らしてくれる
そして僕らはビオラを取って弾く
すると歌と満月が心に現れる
(リフレーン)

3. セルタオンで月が紅く昇る時

魂の中で痛みも紅く生まれて浮ぶ
そして月が昇り、血は明かりに変わる
それから僕達の痛みは懐かしさに変わる
あのようによく、同じ色に
(リフレーン)

*「セルタオン」はブラジル北東部に在る乾いた荒地。ブラジルの大都会ではこの地方からの出稼ぎ者が多く、セルタオンは懐かしい田舎として親しまれている。2番の歌詞にある「ピオラ」は10弦のやや小型のギターで主にセルトン地方の民族音楽に使われる。

3番目の歌詞を口ずさみながら、私たちの赤い傷の痛みも、太陽の光(主の光)を受けて白く輝くなら、懐かしさと感謝に変えられることを思いました。同時に、荒地を汗と涙をもって開墾したブラジル移民の辛苦を重ねて思われました。「セルタオンの月明かり」、ブラジルだけでなく、今秋、日本でも歌わせていただくと思っています。

●イスラム圏伝道

4月のツアーの最後の晩の18日、フランクフルトのホテルでテレビをつけると、ショッキングなニュースが放映されていました。ひとつは、アメリカ、バージニア州のバージニア工科大学銃乱射事件、もうひとつは、トルコ南東部のマラティアでの、聖書出版事務所の3人が殺害された事件でした。殺害されたのは、トルコ人のネジャディ師(マラティアの福音教会牧師)、ウール氏、ドイツ人のティルマン宣教師です。

10人の犯人たちは、求道者を装って事務所に出入りしていた、イスラム過激派とつながりを持つ19-20才の青年達でした。彼らは「われわれの宗教に反する者は敵だ。国のためにやった」と平気で答えました。それに対して、3人の子どもを持つティルマン師の奥さんが、「犯人たちを赦しました。復讐は考えていません」と告別式で語ったことばがドイツの新聞にも大きく掲載され、素晴らしい証しとなりました。



イスラム圏では、今回の事件がさらなる発火点になったかのように、クリスチャンへの迫害が続いています。スーダンでも4人のクリスチャンが撃たれ、5人のクリスチャンが重軽傷を負いました。

皆さん、このような迫害下にある多くの宣教師・伝道師たちは、今、どのような祈禱課題を発信してきていると思いますか？それは、自分たちが迫害から守られますように、ではなく、「どのような状況になっても、生きた証しができますように」という祈禱課題なのです。

トルコ・プロテスタント同盟会長のイサン師は、「私たちはこの国に住んでいます。この地はイスラム教徒に属しているように私たちにも属しています。平和の中に住みたいと願っていますが、もし、彼らがマラティアの兄弟を殺したように私たちを殺すなら、私たちは死にます」。と語りました。

私も「どのような状況になっても、生きた証しができますように」と、今心を引き締められる思いで主に祈らされています。そして、福音のために日々キリストにいのちを捧げながら奮闘しているイスラム圏の主の戦士たちのために、そして、彼らの働きを通して、イスラム圏に住むひとりでも多くの人々が真の救い主であるキリストを見出すことができますよう、共に祈りを捧げてまいりましょう！

(写真: 松林幸次郎さん撮影、すずらんはドイツ語で Maiglöckchen「5月の鐘」という意味)

●お祈りください

出版を予定している「賛美のこころ」の編集作業も佳境に入りました。出版までの全行程が守られますようお祈りください。出版は、6月下旬を予定しています。また、次のサイトから、「賛美のこころ」コーナーが掲載されていますので、是非ご覧下さい。 <http://www.bmp.jp/kudo/01.htm>

それでは、また2週間後にメルマガをお送りさせていただきますね。
どうぞ主にあつて、健やかな日々を過ごされますように！

工藤篤子